

都市再生整備計画 事後評価シート
久留米市大善寺地区

令和7年10月

福岡県 久留米市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	久留米市	地区名	久留米市大善寺地区			面積	54ha				
交付期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	95.5百万円	国费率	0.50						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 提案事業	【道路】駅前広場整備・道路改良等3路線 【地域生活基盤施設】自転車駐車場整備等										
			事業名										
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業 提案事業	【道路】道路改良等3路線 【地域生活基盤施設】自転車駐車場整備等		用地交渉難航により本計画期間での事業完了に至らなかったため。		削除した事業については、次期計画で実施予定であるため、目標や指標等への影響はない。						
	新たに追加した事業	基幹事業 提案事業	なし										
交付期間の変更	当初 変更	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	大善寺駅乗降客数の維持	人	1,215,000	H29	1,215,000	R6	-	1,239,000	○	あり なし	東口駅前広場整備が完了したことにより、西鉄大善寺駅の送迎車等の混雑が解消し、駅利用者の利便性が向上した。評価年度であるR6年度においては、日乗降客数3,400人を超えており、目標値を達成することが出来た。	
	指標2	居住誘導区域内の人口密度維持	人	56.7	H31	56.7	R6	-	57.9	○	あり なし	安心安全なまちづくりに向けて、家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されたことにより、居住誘導区域が見直しされたことで評価年度の人口密度が増加した。	
指標3							-			あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング		-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-				
	住民参加プロセス	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			0				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

久留米市大善寺地区(福岡県久留米市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標	地域生活拠点として相応しい魅力あるコンパクトな拠点市街地を形成し、鉄道を活かした他拠点とネットワークする都市構造の実現	大善寺駅乗降客数の維持	人	1,215,000	H29	1,215,000	R6	1,239,000	R6
		居住誘導区域内の人口密度維持	人	56.7	H31	56.7	R6	57.9	R6
目標1	駅周辺における安心安全な広域拠点整備による住みやすいまちづくり								
目標2	快適な生活環境の充実や、各施設へのアクセス向上による住み続けたいまちづくり								



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 大善寺地区は、久留米市立地適正化計画にて掲げている居住誘導区域の人口維持を指標としており、計画期間の指標はクリアしている。 今後も人口を維持していくには、地域生活拠点および特急停車駅としてのポテンシャルを活かすために公共交通の利便性向上とコンパクトな市街地形成が必要となってくる。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 本計画にて、大善寺駅東口駅前広場の道路拡幅を行い、ロータリー内の送迎車と通行車の混雑が緩和され、利便性が向上した。 当地区は、大善寺駅を中心に市街地形成しており、自転車や車、バス等様々な交通手段で駅へアクセスしている状況である。各動線の安全確保等に対応し、円滑な乗り継ぎを実現するために駅前広場や道路整備、自転車駐車場整備に引き続き進めていく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

(2) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

(3) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(4) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(5) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
道路	西口駅前交通広場	1,605.0	・県道交差点改良(L=220m) ・駅前広場整備 ・乗降場設置(バス・タクシー・ 身障者用) ・一般車駐車場整備(10台)	91.5	西口駅前広場詳細設計 建物補償調査 用地購入	・県道交差点改良事業は 福岡県にて実施すること になったため ・用地交渉難航により、 全ての地権者から用地買収 出来なかったため ※駅前広場整備について は次期計画にて実施予定	削除した事業については、次期計画で実施予定であるた め、目標や指標等への影響はない。	—	—
	C58-1号線	502.0	・道路拡幅(L=110m)	0.0		・取付道路(その1)に名称 変更後、用途交渉難航に より、用地買収できなかった ため、次期計画にて実施 予定	削除した事業については、次期計画で実施予定であるた め、目標や指標等への影響はない。	—	—
	C58-1号線(踏切改良)	300.0	・1箇所	0.0		・警察より生活交通量の増 加を促す助線整備は望ま しくないと指摘を受けたた め計画削除	—	—	—
	B576号線	270.0	・道路拡幅(L=50m)	0.0		・取付道路(その2)に名称変 更後、用地交渉難航によ り、用地買収出来なかった ため、次期計画にて実施予 定	削除した事業については、次期計画で実施予定であるた め、目標や指標等への影響はない。	—	—
	東口駅前交通広場	10.0	・駅前広場入口の道路拡幅 A=100m ²	4.0	・駅前広場入口の道路拡幅	—	道路拡幅を行い、ロータリー内の送迎車、通行車の混雑 緩和による、利便性向上と乗降客数維持に繋がった。	●	—
公園									
地域生活 基盤施設	大善寺駅西側自転車駐車場整備	160.0	・自転車駐車場整備	0.0		・用地交渉難航により、用地 買収出来なかったため、 次期計画にて実施予定	削除した事業については、次期計画で実施予定であるた め、目標や指標等への影響はない。	—	—
	案内サイン整備事業	60.0	・案内サイン(看板)整備 N=8基	0.0		・事業費縮減のため、 計画削除	—	—	—
高質空間 形成施設									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準	目標	モニタリング	事後評価	見込み	達成度	評価	あり	なし			
指標 1	大善寺駅乗降客数の維持	人	(計測手法・評価値) 日乗降客数×30日×12か月	1,215,000	H29	1,215,000	R6	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
								事後評価	確定 ●	1,239,000	事後評価	●		
指標 2	居住誘導区域内の人口密度維持	人	(計測手法・評価値) 居住誘導区域人口÷居住誘導区域面積 人口および面積については、住民基本台帳より算出	56.7	H31	56.7	R6	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
								事後評価	確定 ●	57.9	事後評価	●		
指標 3								モニタリング	—	—	モニタリング	—		
								事後評価	確定 ●		事後評価			
指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)						その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標 1	目標達成度【○】 一部事業が完了したことによる、利便性向上のため。													
指標 2	目標達成度【○】 家屋倒壊等氾濫想定区域の指定により、居住誘導区域が見直しされたため。													
指標 3														

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	都市建設部総務・まちなか整備課	令和7年5月2日	都市建設部まちなか整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2							
指標名		大善寺駅乗降客数の維持		居住誘導区域内の人口密度維持							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	西口駅前交通広場 東口駅前交通広場	△ ○	東口駅前広場整備が完了したことにより、西鉄大善寺駅の送迎車等の混雑が解消し、駅利用者の利便性が向上した。評価年度であるR6年度においては、日乗降客数3,400人を超えており、目標値を達成することが出来た。	△ △	安心安全なまちづくりに向けて、家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されたことにより、居住誘導区域が見直しされたことで評価年度の人口密度が増加した。						
	提案事業										
関連事業	大善寺駅前交通広場道路整備事業	△		△							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	自転車や車、バス等様々な交通手段で駅へアクセスしている状況であり、各動線の安全確保等に対応し、円滑な乗り継ぎを実現するために駅前広場や道路整備、自転車駐車場整備を引き続き進めていく。	今後も人口を維持していくには、地域生活拠点および特急停車駅としてのポテンシャルを活かすために公共交通の利便性向上とコンパクトな市街地形成が必要となってくる。			
-------	---	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会	都市建設部総務・まちなか整備課	令和7年5月8日	都市建設部まちなか整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
大善寺駅西口駅前スペースの道路線形が狭小、クランク状である。	・西口駅前広場詳細設計 ・建物補償調査 ・事業用地の一部用地購入	・用地交渉難航により、本計画内での事業完了が出来なかったため、次期計画にて継続して事業を推進していく	—
大善寺駅西口交差点から西口駅前スペースへ向かう進入路の道路幅員が4～5mと狭小である。			—
大善寺駅西側の自転車駐車場の収容能力不足。			—
自転車や歩行者が幅員狭小である大善寺駅西口駅舎北側の踏切を横断し、東西へ行き来している。	・本計画のC58-1号線(踏切改良)は、警察より生活交通量の増加を促す動線整備は望ましくないと指摘を受けたため計画削除		—
区画整理事業で整備された大善寺駅東口駅前広場の入口が狭小であり、ロータリー内に渋滞が発生している。	・駅前広場交通島の緑石を駅前広場入口から駅舎前にかけて、撤去・再設置し、道路幅員を拡幅したことにより送迎車と通行車のスペースが確保され、渋滞緩和につながった。	—	—
大善寺駅周辺において、駅および文化施設等への案内看板が無い。	・本計画の地域生活拠点(案内サイン整備事業)は事業費縮減のため削除	・案内看板がないため、駅周辺からのアクセス性が悪い	—

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地区内の拠点整備	地域生活拠点および特急停車駅としてのポテンシャルを活かすために公共交通の利便性向上とコンパクトな市街地形成	円滑な乗り継ぎの実現、アクセス向上のための施設整備

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	本計画で完了出来なかった事業の整備	次期計画で達成するために任意交渉と併せて収用を見据えた関係機関との協議を図り、用地取得を推進していく	西口駅前広場整備・自転車駐車場整備・取付道路整備
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
■	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
■	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	大善寺駅乗降客数の維持	人	1,215,000	H29	1,215,000	R6	確定 ●	1,239,000 ●		あり	→			
							見込み			なし				
指標2	居住誘導区域内の人口密度維持	人	56.7	H31	56.7	R6	確定 ●	57.9 ●		あり	→			
							見込み			なし				
指標3		0	0	0	0	0	確定	0	0	あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標1											→	-	-	-
その他の数値指標2											→	-	-	-
その他の数値指標3											→	-	-	-
その他の数値指標4							確定 -				→			
							見込み -							
その他の数値指標5							確定 -				→			
							見込み -							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	整備計画事業の一部完了による効果で数値目標が達成出来た。	—
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	東口駅前広場整備完了により、利便性等向上した。	数値目標と整備効果の関連性検証が難しいため、整備効果と関連性が高い目標設定の検討を行う。
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定有(大善寺地区次期計画)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和7年9月8日～9月19日	令和7年9月8日～9月19日	担当課への郵送、持参、FAX、電子メール	都市建設部 総務
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	担当課で閲覧	令和7年9月8日～9月19日	令和7年9月8日～9月19日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	大森洋子委員(久留米工業大学工学部教授) 包清博之委員(九州大学芸術工学部名誉教授) 清水啓介委員(久留米市校区まちづくり連絡協議会会長)	令和7年9月22日	都市建設部 総務	久留米市公共事業 再評価検討委員会規則	久留米市公共事業 再評価検討委員会
その他の委員	松本美佳委員(久留米市役所観光・国際課課長)				
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	概ね妥当であり、事後評価が適正に実施された事が確認された。			
	成果の評価	基幹事業が一部完了したことにより、整備計画で掲げている指標の達成が確認された。一方で、アンケート調査による整備効果の満足度を図る指標設定を行うことも一つの案である。			
	実施過程の評価	東口駅前広場整備事業の完了により、駅前ロータリーの渋滞緩和や通行性の改善に繋がったのは良い事である。			
	効果発現要因の整理	今後人口減少が進行していき、同時並行で鉄道利用者も減少していくと思われるため、鉄道利用者を維持するための対策が必要になってくる。			
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である。			
	その他	特になし。			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	概ね妥当である。			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	西口駅前広場の中央に配置される緑地の有効活用や特急停車駅の利点を生かした、駅マルシェ等の開催といった賑わいづくりのイベント開催の検討			
	フォローアップ	特になし。			
	その他	特になし。			
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は概ね妥当である事が確認された。			
その他	特になし。				

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。